

令和元年度 ネットワーク事業 健康増進施設・連絡会議 実施報告書

令和元年9月6日（金）に「令和元年度 ネットワーク事業 健康増進施設・連絡会議」を開催しました。連絡会議は、健康増進施設（運動施設）の管理者や指導員、企業・自治体の健康管理者および衛生部門の担当者、愛知県健康づくりアドバンスリーダーを対象とし、53名の参加がありました。

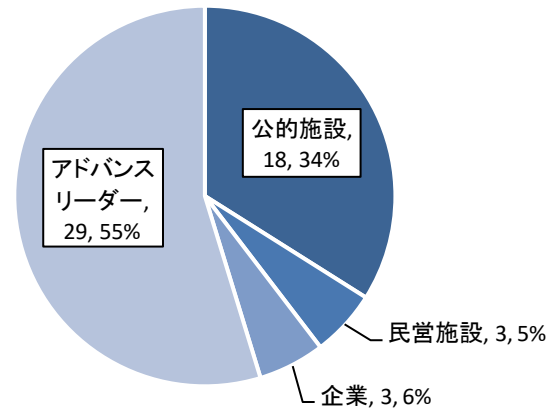
1. 参加状況

53名

<所属別>

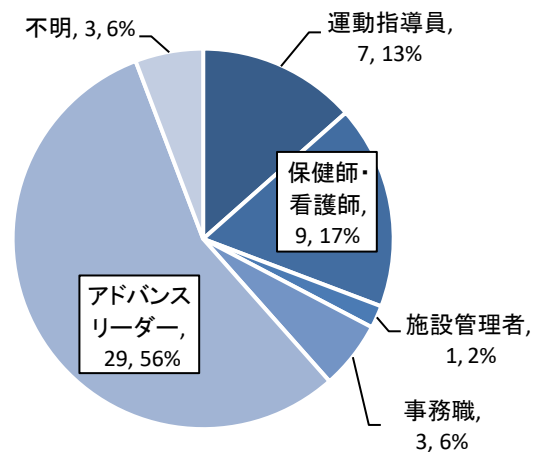
施設区分	人数
公的施設	18人
民営施設	3人
企業	3人
アドバンスリーダー	29人

所属別



職種	人数
健康運動指導士 (運動指導員含む)	7人
保健師・看護師	9人
施設管理者	1人
事務職	3人
アドバンスリーダー	29人
不明	3人

職種別



2. 研修会カリキュラム

本ネットワーク事業では、県民が運動しやすいまちづくりと環境整備の推進及び、健康のための資源へのアクセスの改善をテーマとして、より多くの健康増進施設等の関係機関が当該事業に参画することにより、“健康寿命の延伸”と“健康格差の縮小”に寄与することを目標とし、開催しました。

今年度は、「心疾患保有者の方への運動支援」をテーマとしました。津下センター長の開会あいさつ後、心疾患保有者の方への運動支援、医療施設と運動指導者の連携について湊口先生よりご講義いただきました。事例紹介では、医療施設の立場から鈴木先生より心疾患保有者の実態と運動実施状況についてご紹介いただき、山口主事より当施設における心疾患保有者の運動実践状況について紹介しました。研修会の最後には、企業、民営施設、公的施設、ボランティアに分かれ、意見交換を行いました。

カリキュラム名	講師所属・氏名
開会あいさつ(10分)	あいち健康の森健康科学総合センター センター長 津下 一代
講演(60分) 「心疾患保有者への運動支援に対する 医療施設と運動指導者の連携について」	岐阜市民病院 心不全センター長 医師 湊口 信也
事例紹介(15分) ①「医療施設における心疾患保有者の実態について」 ②「あいち健康の森健康科学総合センターにおける心疾患保有者の運動実践状況調査と今後の取り組みについて」	半田市立半田病院 理学療法士 鈴木 淳也 あいち健康の森健康科学総合センター 運動指導員 山口 和輝
意見交換・まとめ (25分)	上記講師

※連絡会議終了後は会場を開放し、参加者同士の情報交換の場を設けた。

3. 研修会の様子

(1) 「開会あいさつ」

あいち健康の森健康科学総合センター センター長 津下 一代



津下センター長より、国民の運動実施率向上のためには、運動好きの人だけでなく、運動に抵抗感がある人や体に不安がある人も一歩踏み出せる環境づくりが必要であるとの話がありました。また、病気があっても運動をすることの意味や効果、適切な運動実施の方法を、企業、行政、ボランティア等が知り、連携することで、心疾患保有者が病院でのリハビリテーション後も地域で安心して運動に取り組むことのできる環境づくりに期待しているとの挨拶がありました。

(2) 「心疾患保有者への運動支援に対する医療施設と運動指導者の連携について」

岐阜市民病院 心不全センター長 医師 湊口 信也



湊口先生の講演では、心臓リハビリテーションとその効果、岐阜県内の心臓リハビリテーションに関する医療・地域連携についてお話いただきました。心筋梗塞後に外来心臓リハビリテーションへ参加することにより、生命予後が改善するとの報告に、参加者も興味深く聞いていました。また、心臓リハビリテーションの実施には、多職種の協力、医療施設や運動施設の連携が不可欠であることお話いただきました。

(3) 事例紹介

① 「医療施設における心疾患保有者の実態について」

半田市立半田病院 理学療法士 鈴木 淳也



鈴木先生からの事例紹介では、心臓リハビリテーションの効果と実態についてお話いただきました。心臓リハビリは運動療法、患者教育、カウンセリングによって構成されており、集団で行うことにより、同じ疾患を抱えている患者同士で励まし合い、不安感の軽減にもつながるとのお話がありました。また、運動種目や、強度についても具体的にご紹介いただきました。心疾患保有者の方から、スポーツクラブに対するイメージを聞いていただき、「心臓病のことを理解してもらえない不安がある」、「スタッフとのコミュニケーションが少ないイメージがある」という生の声も知ることができました。

② 「あいち健康の森健康科学総合センターにおける

心疾患保有者の運動実践状況調査と今後の取り組みについて」

あいち健康の森健康科学総合センター 健康運動指導士 山口 和輝



当センターの山口主事からは、当施設で実施している健康チェックや運動実施時の運動処方、心疾患保有者の施設利用状況等について紹介しました。また、愛知県研究開発事業「虚血性心疾患の二次予防を目指した地域における運動療法プログラム」についても紹介しました。特に緊急時の対応に関しては、救急訓練の実施や救急マニュアルの作成等を行い、心疾患保有者の方が安心して運動できるよう、安全面への配慮についての話がありました。

(4) 意見交換・まとめ

講演の終了後、参加者による意見交換とまとめを行いました。現在の取り組みや、本日の講演を聞いてヒントを得たこと、参考にしたいと思ったことについて、短い時間ではありましたが活発な意見交換会となりました。

研修会を通して、参加者からは、「評価や指導の方法に不安があったが、クリアになった。」、「対象者のことを把握し、安全に運動ができるよう支援したい。」、「医療機関と運動施設の連携で運動しやすい環境づくりをしたい。」という前向きな感想がありました。

津下センター長からは、運動は継続することが大切であるため、心疾患保有者の方が切れ目なく運動実施できるよう、今後も行政、企業、ボランティアがそれぞれの立場で考えてほしい、また、今回聞いた話を3人以上の方に伝え、連携をつなげてほしい、とコメントがありました。

